

## 平垣内理事長 閉会挨拶

日本海事センターの理事長の平垣内でございます。

先ずは、開催地である苫小牧市さん、北海道さんなど関係の皆様のお蔭を持ちまして、本日無事に、かくも盛大にフォーラムが開催できたことにお礼を申し上げます。

また、本日大変お忙しい中、ご挨拶を頂きました皆様、講演を頂きました講師方々、パネルディスカッションに参加頂きました皆様にもお礼を申し上げます。

さて本日のフォーラムのテーマは、脱炭素でした。脱炭素については、ウクライナ戦争、米国の政治状況などの要因により、最近若干歩みのペースが鈍化したようにも思われます。実際世界で、EVの販売が鈍化しております。IMOにおける脱炭素の規制の議論も、IMOが多様な参加国から構成されているという特性から、予断を許さない状況です。

ただ脱炭素については、EUの海運関係の規制がありますし、この他製造業に関する規制のスコープ3という形でも海運分野には影響があります。また、環境に関する規制は安全とは異なり規制という形だけでなく、荷主など大企業からの要請という形でかかってきます。本日のラピダスさんの先進的な脱炭素の取り組みはまさにその好事例ではないでしょうか？

また、昨今の情勢により、エネルギーについては、脱炭素の要求に加え、安定供給の重要性をあらためて、我々に思い起こさせました。このともすれば、背反する2つの目的を追求することが、大変重要ではないでしょうか。また、そのための工夫が、必要でないでしょうか？アンモニア燃料などの従来の取り組みに加え、最近のCCUSや先ほど出光さんのご説明にもあったe-fuelの取り組みがその具体例ではないでしょうか？

そういった観点から、豊富な再生可能なエネルギーを有するという特徴を持った北海道での取り組みに期待しますし、当財団としても最大限のご支援をして参りたいと考えております。

また、こうした取り組みは、本日ご説明のあった洋上風力のメンテナンス関係の北拓さんとか、海運の新たな展開にも非常に重要な意味を持ちます。

本日のフォーラムが、海事分野における脱炭素の促進の一助になれば幸いです。

最後に本日参加あるいはご視聴の皆様、長時間にわたり、ご苦勞でした。本当にありがとうございました。

(以上)